

## 一般演題1 O1-3

## 琉球大学病院の診療報酬改定による高気圧酸素治療の患者動態

砂川昌秀<sup>1)</sup> 上江洲安之<sup>1)</sup> 前原博樹<sup>2)</sup>堂籠 博<sup>2) 3)</sup>

- |    |        |        |
|----|--------|--------|
| 1) | 琉球大学病院 | 臨床工学室  |
| 2) | 琉球大学病院 | 高気圧治療部 |
| 3) | 琉球大学病院 | 救急部    |

## 【目的】

今回我々は、診療報酬改定前2017年度と改定後の2018年度、2019年度の高気圧酸素治療（HBO）実施した患者を対象とし、紹介患者数と疾患数の変化、およびHBO件数を比較分析したので報告する。

## 【結果】

紹介患者数は、診療報酬改訂前の2017年度215名、改定後の2018年度は220名、2019年度は242名と増加傾向が見られた。HBO件数は、2017年度5004件、改定初年度の2018年度は3742件と減少したが、2019年度に4037件と増加した（図1）。

主な疾患の患者数の変化ですが、突発性難聴は、2017年度と2018年度は91名であり、2019年度は82名に減少している。術後の急性末梢血管障害は、2017年度36名、2018年度19名、2019年度に16名と減少傾向が見られた。反対に難治性潰瘍を伴う末梢循環障害は、増加傾向が見られ2017年度に22名から2018年度41名、2019年度は56名と、改訂前より34名増加した。紹介疾患数の過半数を占める突発性難聴の患者1名当たりのHBO回数は、2017年度は14.6回であり30回を超える症例が7名、最大40回以上の症例も見られた。2018年度は、紹介患者数は同数であるがHBO回数は12.6回と減少した。2019年度は、患者数は減少するもHBO回数は14.3回と改訂前と同程度であった。突発性難聴が救急的なものに分類された適応疾患に対する上限10回であれば全体のHBO件数は大きく減少していたと考えられる。骨髄炎と放射線障害疾患の紹介患者数は2017年度に30名、2018年度は37名、2019年度には41名と増加傾向を示しているが、1名当たりのHBO回数は減少していた。これは、2017年度に13症例において30回以上の

HBOが行われており、内4症例は50回以上、100回を超えた症例も見られた。また難治性潰瘍疾患においても同様の傾向が見られた。急性末梢血管障害は、紹介患者数の減少もあるが上限10回による影響が見られる（図2）。

## 【考察】

今回の診療報酬改定の特色は、疾患によるHBO回数の上限設定と診療報酬点数を救急、非救急および治療装置の種別関係ない一律3000点とされた事である。また救急的なものであった突発性難聴と網膜動脈閉塞症の治療が30回までHBOが可能となり、全体のHBO件数の減少を抑制した要因の一つと考えられる。

## 【結語】

外来患者の金銭的な負担感や上限設定による回復過程の治療終了などの問題も見られるが、今回の診療報酬改定は、経費のかかる第2種装置の維持や専門医療職の増員など今後のHBO医療において安定した安全な医療提供に有効である。

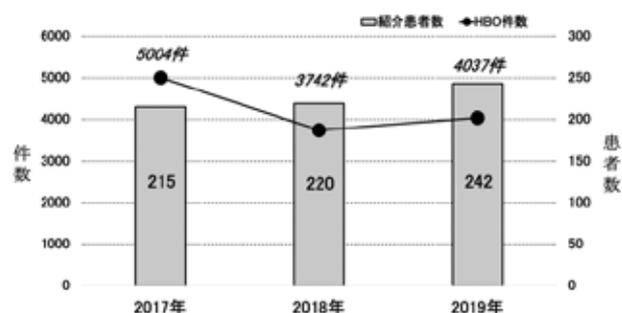


図1 紹介患者数と HBO 件数の変化

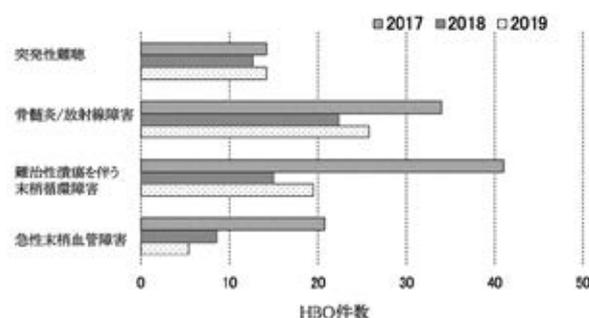


図2 主要4疾患の1患者当たりの HBO 件数